

学則

第 1 章 総 則

(大学の目的)

第 1 条 本学は、教育基本法にのっとり、広く一般教養を高めるとともに、高い倫理観を養成し、より深い専門知識と技術を教授研究し、国民の保健に対する社会の要望に応えうる技術と能力を備えた人材の育成に努めることを目的とする。

(保健医療学部の目的)

第 1 条の 2 保健医療学部（本条において以下「本学部」という。）は、大学の目的にのっとり、保健医療に関わる医療人に求められる広い一般教養と高い倫理観を養成するとともに、より深い保健医療に関する専門知識と技術を教授研究し、保健医療に対する社会の要請に応えうる技術と能力を持つ人材の育成に努める。

2 本学部におく各学科の教育研究上の目的は、次の各号に定めるとおりとする。

(1) 本学部はり灸・スポーツトレーナー学科は、前項の目的にのっとり、広い一般教養と高い倫理観を養成し、より深い東洋医学系物理的治療に関する専門知識と技術を教授研究し、質の高い鍼灸医学系の人材の育成に努める。

(2) 本学部理学療法学科は、前項の目的にのっとり、広い一般教養と高い倫理観を養成し、より深い理学療法に関する専門知識と技術を教授研究し、質の高い理学療法士の人材の育成に努める。

(3) 本学部作業療法学科は、前項の目的にのっとり、広い一般教養と高い倫理観を養成し、より深い作業療法に関する専門知識と技術を教授研究し、質の高い作業療法学系の人材の育成に努める。

(4) 本学部ヘルスプロモーション整復学科は、前項の目的にのっとり、広い一般教養と高い倫理観を養成し、保健と柔道整復に関する専門知識と技術を教授研究し、質の高い保健医療学系の人材の育成に努める。

(5) 本学部臨床検査学科は、前項の目的にのっとり、広い一般教養・高い倫理観と高度な専門知識・技術をもとに臨床検査を遂行し、チーム医療の一員として社会に役立つ使命感を持った人材の育成に努める。

(保健看護学部の目的)

第 1 条の 3 保健看護学部（本条において以下「本学部」という。）は、大学の目的にのっとり、保健看護に関わる医療人に求められる広い一般教養と高い倫理観を養成するとともに、より深い保健看護に関する専門知識と技術を教授研究し、保健看護に対する社会の要請に応えうる技術と能力を持つ人材の育成に努める。

2 本学部保健看護学科は、前項の目的にのっとり、広い一般教養、豊かな人間性、及び高い倫理観を養成し、保健看護に関するより深い専門知識と技術を教授研究し、保健看護の実践・教育・研究など広い分野で活躍できる質の高い人材の育成に努める。

(自己点検・評価)

第 2 条 本学は、教育研究水準の向上を図り、その目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自己点検及び評価（以下「自己点検・評価」という。）を行い、その結果を公表するものとする。

2 自己点検・評価を行うため、本学に自己点検・評価委員会を置く。

3 自己点検・評価委員会に関して必要な事項は別に定める。

(個人情報保護)

第 3 条 学生が本学に届け出た氏名、住所等の情報並びに在学中の記録等（以下「個人情報」という。）は、本学が行う教育及び学生サービス等以外の目的に利用してはならない。

2 個人情報は、本人の同意がある場合もしくは別に定める例外の場合を除いて、第三者に開示してはならない。

第 2 章 学科、学生定員及び修業年限

(学部、学科及び学生定員)

第 4 条 本学において設置する学部、学科及びその学生定員は次のとおりとする。

| 学 部 | 学 科 | 入学定員 | 収容定員 |
|--------|-----------------|------|------|
| 保健医療学部 | はり灸・スポーツトレーナー学科 | 50名 | 200名 |
| | 理学療法学科 | 60名 | 240名 |
| | 作業療法学科 | 40名 | 160名 |
| | ヘルスプロモーション整復学科 | 40名 | 160名 |
| | 臨床検査学科 | 60名 | 240名 |
| 保健看護学部 | 保健看護学科 | 90名 | 360名 |

(修業年限及び在学年限)

第 5 条 本学の修業年限は、4年とする。

2 学生は、8年を超えて在学することはできない。ただし、編入学、再入学又は転入学した学生は、その者の在学すべき年数の2倍に相当する年数を超えて在学することはできない。

第 3 章 学年、学期及び休業日

(学 年)

第 6 条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

(学 期)

第 7 条 学年を次の2学期に分ける。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から翌年3月31日まで

(休 業 日)

第 8 条 休業日は、次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 「国民の祝日に関する法律」(昭和23年法律第178号)に定める休日

(3) 創立記念日 10月27日

(4) 夏期休業日 8月5日から9月15日まで

(5) 冬期休業日 12月21日から翌年1月10日まで

(6) 春期休業日 3月21日から3月31日まで

2 必要がある場合、学長は、前項の休業日を臨時に変更することができる。

3 第1項に定めるもののほか、学長は、臨時の休業日を定めることができる。

第 4 章 入学、退学及び休学

(入学の時期)

第 9 条 入学の時期は、学年の始めとする。

(入学の資格)

第 10 条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

(1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者

(2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者(通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者を含む。)

(3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者

(4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

(5) 文部科学大臣の指定した者

(6) 高等学校卒業程度認定試験規則(平成17年文部科学省令第1号)による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程(昭和26年文部省令第13号)による大学入学資格検定に合格した者を含む。)

(7) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で18歳に達した者

(入学の出願)

第 11 条 本学に入学を志願する者は、本学所定の入学願書に所定の入学検定料及び別に定める書類を

添えて願出なければならない。

2 提出の時期、方法、提出すべき書類等については別に定める。

(入学者の選考)

第12条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより選考を行う。

(入学手続き及び入学許可)

第13条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに、本学所定の書類を提出するとともに、所定の入学金を納付しなければならない。

2 入学手続きの際に、保証人を届け出るものとする。

3 学長は、前項の入学手続きを完了した者に入学を許可する。

(編入学)

第14条 次の各号の一に該当する者で、本学への編入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考の上、相当年次に入学を許可することがある。

(1) 大学を卒業した者又は退学した者

(2) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者

(3) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者として、学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)第155条第2項又は同第177条に規定する者

(4) 専修学校の専門課程(修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。以下同じ。)を修了した者

2 前項の規定により入学を許可された者の既に修得した授業科目及び単位数の取り扱い並びに在学すべき年数については、学長が決定する。

(再入学、転入学)

第15条 本学に再入学又は転入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考の上、相当年次に入学を許可することがある。

2 前項の規定により入学を許可された者の既に修得した授業科目及び単位数の取り扱い並びに在学すべき年数については、学長が決定する。

(退学)

第16条 退学しようとする者は、学長の許可を得なければならない。

(休学)

第17条 学生は疾病その他やむを得ない理由により、引き続き2カ月以上修学することができないときは、学長に届け出て休学することができる。

2 疾病を理由とする休学届には医師の診断書を添付しなければならない。

3 疾病その他特別の理由により修学することが適当でないと認められる者については、学長は休学を命ずることができる。

(休学の期間)

第18条 休学の期間は1年を超えることができない。ただし、特別の理由がある場合は、引き続き更に1年まで延長することができる。

2 休学の期間は通算して2年を超えることができない。

3 休学の期間は第5条第2項の在学年限に算入しない。

(復学)

第19条 休学期間中にその理由が消滅した場合は、学長の許可を得て復学することができる。

(除籍)

第20条 次の各号の一に該当する者は、学長が除籍する。

(1) 第5条第2項に定める在学年限を超えた者

(2) 第18条第2項に定める休学の期間を超えてなお修学できない者

(3) 授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しない者

(4) 長期間にわたり行方不明の者

(5) 在学中に死亡した者

第5章 教育課程及び履修方法等

(授業科目)

第21条 教育課程及び履修方法は別表第1のとおりとする。

2 学生は、他学部又は他学科の授業科目を履修して、修得した科目の単位を卒業に必要な単位数に算入することができる。

(授業の方法)

- 第22条 授業は、講義、演習、実験、実習もしくは実技のいずれかにより、又はこれらの併用により行うものとする。
- 2 前項の授業を、多様なメディアを利用して行う必要があるときは、あらかじめ指定した日時に、パーソナルコンピュータその他双方向の通信手段により行うことができる。
 - 3 前項の授業は、教室等以外の場所で行うことができる。
 - 4 第2項の授業の方法により修得する単位数は60単位を超えないものとする。
 - 5 第2項の授業を実施する授業科目については、別に定める。

(単位の計算方法)

- 第23条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じて当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。
- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
 - (2) 実験、実習及び実技については30時間から45時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- 2 前項の規定にかかわらず、卒業研究等の授業科目については、これに必要な学修等を考慮して、単位数を定める。

(単位の授与)

- 第24条 授業科目を履修し、その試験に合格した者には、配当学年ごとに所定の単位を与える。

(学修の評価)

- 第25条 試験等の評価はS、A、B、C、Dをもって表わし、C以上を合格とする。

(他大学等における授業科目の履修等)

- 第26条 教育上有益と認めるときは、学生が他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、本学における授業科目の履修により修得したものと認定することができる。
- 2 前項により認定できる単位数は、60単位を超えないこととする。

(大学以外の教育施設等における学修)

- 第27条 教育上有益と認めるときは、短期大学又は高等専門学校専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修により修得したものと認定することができる。
- 2 前項により認定できる単位数は、前条により本学において修得したものと認定する単位数とあわせて60単位を超えないこととする。

(入学前の既取得単位の認定)

- 第28条 教育上有益と認めるときは、学生が入学前に大学又は短期大学等において修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む)を、本学における授業科目の履修により修得したものと認定することができる。
- 2 前項により認定できる単位数は、編入学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、60単位を超えないこととする。

(本学以外での履修の許可)

- 第29条 学生が第26条又は第27条により本学以外において授業科目の履修を希望するときは、学長の許可を得なければならない。

(本学以外で修得した科目及び単位の取り扱い)

- 第30条 本学以外において修得した科目及び単位の取り扱いについては、別に定める。

第6章 卒業等

(卒業)

- 第31条 本学に4年以上在学し、所定の単位を修得した者については、学長が卒業を認定する。
- 2 学長は、卒業を認定した者に対して、卒業証書・学位記を授与する。

(学位)

- 第32条 卒業した者には、次の区分に従い、学士の学位を授与する。
- | | | |
|--------|-----------------|-----------|
| 保健医療学部 | はり灸・スポーツトレーナー学科 | 学士(鍼灸学) |
| | 理学療法学科 | 学士(理学療法学) |

| | |
|----------------|-----------|
| 作業療法学科 | 学士（作業療法学） |
| ヘルスプロモーション整復学科 | 学士（保健医療学） |
| 臨床検査学科 | 学士（保健衛生学） |
| 保健看護学部 保健看護学科 | 学士（看護学） |

第 7 章 検定料、入学金、授業料その他の費用

（検定料等の金額）

第 3 3 条 本学の検定料、入学金、授業料等の金額は別表第 2 のとおりとする。

（授業料等の納入期）

第 3 4 条 授業料等は別表第 2 に定める期日までに納入しなければならない。ただし、特別の事情があると認められる者は、延納を認めることがある。

（退学及び停学の場合の授業料等）

第 3 5 条 学期の途中で退学し又は除籍された者の当該期分の授業料等は徴収する。

2 停学期間中の授業料等は徴収する。

（休学の場合の授業料等）

第 3 6 条 休学を許可され又は命ぜられた者については、休学した月の翌月から復学した月の前月までの授業料等を免除する。

2 ただし、在籍料を徴収することとし、その金額は別表第 3 のとおりとする。

（復学の場合の授業料等）

第 3 7 条 学期の途中で復学した者は、復学した月から当該期末までの授業料等を復学した月に納付しなければならない。

2 休学期間が 1 年を超えて復学した者に係る授業料等の額は、当該者の属する年次の在学者に係る額と同額とする。

（学年の途中で卒業する見込みの者の授業料等）

第 3 8 条 学年の途中で卒業する見込みの者は、卒業する見込みの月までの授業料等を納付するものとする。

（納付した授業料等）

第 3 9 条 納付した検定料、入学金及び授業料等は原則として返付しない。

第 8 章 教職員組織

（教職員組織）

第 4 0 条 本学に学長、教授、准教授、講師、助教、助手及び事務職員、技術職員、その他の職員を置く。

2 本学に必要な応じて副学長を置くことができる。

第 9 章 大学運営会議及び教授会

（大学運営会議）

第 4 1 条 本学に大学運営会議（以下「運営会議」という。）を置く。

2 運営会議は、教学における内部質保証のための基本方針と大学運営に関する重要事項について審議する。

3 運営会議の組織及び運営に関して必要な事項は学長が別に定める。

（教授会）

第 4 2 条 本学の各学部に教授会を置く。

2 教授会は、当該学部の学部長及び当該学部の教授をもって組織する。

3 教授会の構成には、必要に応じ、教授以外の教職員を加えることができる。

4 学長は、教育研究に関する次の各号に掲げる事項について決定を行うに当たり、当該学部教授会の意見を聴くものとする。

(1) 学生の入学及び卒業

(2) 学位の授与

(3) 前 2 号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

5 教授会は、前項に規定するもののほか、学長がつかさどる教育研究に関する事項について、意見を述べるができる。

6 教授会は、第 4 項に規定するもののほか、学長の指示する事項に対し、速やかに意見を述べ

なければならない。

- 7 学長が必要と認めた場合は、学部合同の教授会及び特別教授会を開催することができる。
- 8 教授会の組織及び運営に関して必要な事項は学長が別に定める。

第10章 科目等履修生、外国人留学生及び研究生

(科目等履修生)

- 第43条 本学において特定の授業科目を履修することを志願する者があるときは、本学の教育に支障がない限りにおいて選考の上、科目等履修生として学長が許可することがある。
- 2 科目等履修生の学費は別表第4のとおりとする。
 - 3 科目等履修生に関して必要な事項は別に定める。

(外国人留学生)

- 第44条 外国人で、大学等において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者があるときは、選考の上、外国人留学生として学長が入学を許可することがある。
- 2 外国人留学生について必要な事項は別に定める。

(研究生)

- 第45条 本学において特定の事項について研究しようとする者があるときは、選考の上、研究生として学長が許可することがある。
- 2 研究生に関して必要な事項は別に定める。

第11章 賞 罰

(表 彰)

- 第46条 学生として表彰に値する行為があった者は、学長が表彰する。

(罰 則)

- 第47条 本学の規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者は、学長が懲戒する。
- 2 前項の懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。
 - 3 前項の退学は次の各号の一に該当する学生に対して行う。
 - (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
 - (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
 - (3) 正当な理由がなくて出席常でない者
 - (4) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者
 - 4 学生の懲戒に関して必要な事項は別に定める。

第12章 厚生及び保健

(保健室及び厚生施設等)

- 第48条 本学に保健室及び学生の厚生に関する施設を置く。

(健康診断)

- 第49条 職員及び学生のため、毎年1回以上健康診断を行う。

第13章 附属施設

(附属施設)

- 第50条 本学に、次の附属施設を置く。
- (1) 附属図書館
 - (2) 附属保健医療施設
 - 2 前項各号に掲げる附属施設に関する規程は学長が別に定める。

第14章 奨学制度

(奨学制度)

- 第51条 学長は、学業及び人格が特に優秀な学生に対して、学費の減免又は貸与等の特典を与えることがある。

附 則

1. この学則は平成15年4月1日から施行する。

附 則

1. この学則は平成18年4月1日から施行する。

附 則

1. この学則は平成19年4月1日から施行する。
2. 平成18年4月1日以前の入学者が、平成19年4月1日以降施行の学則別表第1により履修する場合の学生納付金は、平成19年4月1日施行の学則別表第2の金額とする。

附 則

1. この学則は平成20年4月1日から施行する。
2. 改正後の別表第1（教育課程）の「1. 保健医療学部鍼灸学科」の規定は、平成20年4月1日以降の1年次入学者から適用する。ただし、改正後の別表第1に掲げる授業科目のうち、教授会が特に必要と認めた授業科目については、平成19年度以前の入学者に対しても履修することを認めることがある。

附 則

1. この学則は平成21年4月1日から施行する。ただし、第1条及び第1条の2は、平成20年4月1日から施行する。
2. 平成21年度から平成23年度までの学生定員は、第4条の規定にかかわらず次のとおりとする。

| 学部 | 学科 | 平成21年度 | | | 平成22年度 | | | 平成23年度 | | |
|--------|----------------|--------|-------|------|--------|-------|------|--------|-------------|------|
| | | 入学定員 | 編入学定員 | 収容定員 | 入学定員 | 編入学定員 | 収容定員 | 入学定員 | 編入学定員 | 収容定員 |
| 保健医療学部 | 鍼灸学科 | 100名 | — | 400名 | 100名 | — | 400名 | 100名 | — | 400名 |
| | 理学療法学科 | 40名 | — | 120名 | 40名 | — | 160名 | 40名 | — | 160名 |
| | ヘルスプロモーション整復学科 | 40名 | — | 80名 | 40名 | — | 120名 | 40名 | — | 160名 |
| 保健看護学部 | 保健看護学科 | 80名 | — | 80名 | 80名 | — | 160名 | 80名 | 8名 (3年次) | 248名 |

附 則

1. この学則は平成22年4月1日から施行する。
2. 改正後の別表第2（学生納付金）の「1. 保健医療学部 鍼灸学科」の規定は、平成22年4月1日以降の1年次入学者から適用する。

附 則

1. この学則は平成24年4月1日から施行する。
2. 改正後の第1条の2第2項第1号、第4条、第32条、別表第1（教育課程）の「1. 保健医療学部 はり灸・スポーツトレーナー学科」、別表第2（学生納付金）の「1. 保健医療学部 はり灸・スポーツトレーナー学科」の規定は、平成24年4月1日以降の1年次入学者から適用する。
3. 平成24年度から平成26年度までの学生定員は、第4条の規定にかかわらず次のとおりとする。

| 学部 | 学科 | 平成24年度 | | | 平成25年度 | | | 平成26年度 | | |
|--------|----------------------|--------|-------|------|--------|-------|------|--------|-------|------|
| | | 入学定員 | 編入学定員 | 収容定員 | 入学定員 | 編入学定員 | 収容定員 | 入学定員 | 編入学定員 | 収容定員 |
| 保健医療学部 | 鍼灸学科/はり灸・スポーツトレーナー学科 | 50名 | — | 350名 | 50名 | — | 300名 | 50名 | — | 250名 |

| | | | | | | | | | | |
|--------|----------------|-----|-------------|------|-----|-------------|------|-----|-------------|------|
| | 理学療法学科 | 40名 | — | 160名 | 40名 | — | 160名 | 40名 | — | 160名 |
| | ヘルスプロモーション整復学科 | 40名 | — | 160名 | 40名 | — | 160名 | 40名 | — | 160名 |
| 保健看護学部 | 保健看護学科 | 80名 | 8名 (3年次) | 336名 | 80名 | 8名 (3年次) | 336名 | 80名 | 8名 (3年次) | 336名 |

4. 改正後の別表第1（教育課程）の「1. 保健医療学部 はり灸・スポーツトレーナー学科」、「4. 保健看護学部 保健看護学科」、別表第2（学生納付金）の規定は、平成24年4月1日以降の1年次入学者から適用する。

附 則

- この学則は平成25年4月1日から施行する。
- 改正後の別表第1（教育課程）の「1. 保健医療学部 はり灸・スポーツトレーナー学科」の規定は、平成25年4月1日以降の1年次入学者から適用する。ただし、改正後の別表第1に掲げる授業科目のうち、教授会が特に必要と認めた授業科目については、平成24年度以前の入学者に対しても履修することを認めることがある。

附 則

- この学則は、平成26年4月1日から施行し、平成26年度入学生から適用する。

附 則

- この学則は、平成27年4月1日から施行する。
- 改正後の別表第1（教育課程）の「3. 保健医療学部 ヘルスプロモーション整復学科」の規定は、平成27年4月1日以降の1年次入学者から適用する。ただし、改正後の別表第1に掲げる授業科目のうち、教授会が特に必要と認めた授業科目については、平成26年度以前の入学者に対しても履修することを認めることがある。

附 則

- この学則は、平成27年4月1日から施行する。
- 平成27年度から平成29年度までの学生定員は、次のとおりとする。

| 学部 | 学科 | 平成27年度 | | 平成28年度 | | 平成29年度 | |
|--------|-----------------|--------|------|--------|------|--------|------|
| | | 入学定員 | 収容定員 | 入学定員 | 収容定員 | 入学定員 | 収容定員 |
| 保健医療学部 | はり灸・スポーツトレーナー学科 | 50名 | 200名 | 50名 | 200名 | 50名 | 200名 |
| | 理学療法学科 | 60名 | 180名 | 60名 | 200名 | 60名 | 220名 |
| | ヘルスプロモーション整復学科 | 40名 | 160名 | 40名 | 160名 | 40名 | 160名 |
| | 臨床検査学科 | 50名 | 150名 | 50名 | 200名 | 50名 | 200名 |
| 保健看護学部 | 保健看護学科 | 90名 | 338名 | 90名 | 340名 | 90名 | 350名 |

附 則

- この学則は、平成27年4月1日から施行する。
- 平成25年4月1日施行の附則2. の「教授会が特に必要と認めた授業科目については」を、「学長が特に必要と認めた授業科目については」に読み替える。

附 則

- この学則は、平成28年4月1日から施行する。
- 改正後の別表第1（教育課程）の「4. 保健医療学部 臨床検査学科」の規定は、平成28年4月1日以降の1年次入学者から適用する。ただし、改正後の別表第1に掲げる授業科目のうち、学長が特に必要と認めた授業科目については、平成27年度以前の入学者に対しても履修することを認めることがある。

附 則

- この学則は、平成30年4月1日から施行する。
- 平成30年度から平成32年度までの学生定員は、次のとおりとする。

| 学部 | 学科 | 平成30年度 | | 平成31年度 | | 平成32年度 | |
|--------|-----------------|--------|------|--------|------|--------|------|
| | | 入学定員 | 収容定員 | 入学定員 | 収容定員 | 入学定員 | 収容定員 |
| 保健医療学部 | はり灸・スポーツトレーナー学科 | 50名 | 200名 | 50名 | 200名 | 50名 | 200名 |
| | 理学療法学科 | 60名 | 240名 | 60名 | 240名 | 60名 | 240名 |
| | 作業療法学科 | 40名 | 40名 | 40名 | 80名 | 40名 | 120名 |
| | ヘルスプロモーション整復学科 | 40名 | 160名 | 40名 | 160名 | 40名 | 160名 |
| | 臨床検査学科 | 60名 | 210名 | 60名 | 220名 | 60名 | 230名 |
| 保健看護学部 | 保健看護学科 | 90名 | 360名 | 90名 | 360名 | 90名 | 360名 |

- 改正後の別表第1（教育課程）の「1. 保健医療学部 はり灸・スポーツトレーナー学科」「4. 保健医療学部 ヘルスプロモーション整復学科」「5. 保健医療学部 臨床検査学科」の規定は、平成30年4月1日以降の1年次入学者から適用する。ただし、改正後の別表第1に掲げる授業科目のうち、学長が特に必要と認めた授業科目については、平成29年度以前の入学者に対しても履修することを認めることがある。

附 則

- この学則は、令和2年4月1日から施行する。
- 改正後の別表第1（教育課程）の「2. 保健医療学部 理学療法学科」および「3. 保健医療学部 作業療法学科」の規定は、令和2年4月1日以降の1年次入学者から適用する。ただし、改正後の別表第1に掲げる授業科目のうち、学長が特に必要と認めた授業科目については、令和元年度以前の入学者に対しても履修することを認めることがある。

附 則

- この学則は、令和3年4月1日から施行する。

附 則

- この学則は、令和4年4月1日から施行する。

附 則

- この学則は、令和4年10月1日から施行する

別表第1 教育課程（第21条・第31条関係）

- 保健医療学部 はり灸・スポーツトレーナー学科

| 区分 | 授業科目名 | 単位数 | | 備考 |
|----|--------------|-----|----|-------|
| | | 必修 | 選択 | |
| 総 | 東洋医療の基礎・導入教育 | 1 | | 必修1単位 |

| | | | | | | | |
|-----------------------|------------------|---------------|--------|---|----------------|--------------------|--|
| 合 教 育 科 目 | 科学的思考 の基盤 | 科学の基礎 | | 1 | 選択科目から6単位以上を選択 | | |
| | | 統計学の基礎 | | 1 | | | |
| | | 情報科学 | | 2 | | | |
| | | 生命のしくみ | | 2 | | | |
| | | 物質と自然のしくみ | | 2 | | | |
| | | 生命の化学 | | 2 | | | |
| | 人間と生活 | 生命倫理 | 2 | | 必修3単位+選択7単位以上 | | |
| | | 日本国憲法（法の基礎知識） | | 2 | | | |
| | | 心理学 | | 2 | | | |
| | | スポーツと健康 | | 2 | | | |
| | | 生涯スポーツⅠ | 1 | | | | |
| | | 生涯スポーツⅡ | | 1 | | | |
| | | 社会学 | | 2 | | | |
| | | 社会福祉論 | | 2 | | | |
| | | 教育学 | | 2 | | | |
| | | 東洋思想 | | 2 | | | |
| | 言語とコミュニ ケーション | 英語表現法Ⅰ | 1 | | 必修4単位+選択3単位以上 | | |
| | | 英語表現法Ⅱ | 1 | | | | |
| | | 英語表現法Ⅲ | 1 | | | | |
| | | 英語表現法Ⅳ | | 1 | | | |
| | | 医療英語 | | 1 | | | |
| | | 国語表現法 | | 1 | | | |
| | | 中国語Ⅰ | | 1 | | | |
| | | 中国語Ⅱ | | 1 | | | |
| | | コミュニケーション学 | 1 | | | | |
| | 専門 教育 科目 | 専門基礎 | 人体の構造Ⅰ | 2 | | 必修24単位+ 選択7単位以上 | 左 選 記 択 以 科 外 目 で 1 専 門 教 育 科 目 上 の |
| | | | 人体の構造Ⅱ | 2 | | | |
| 人体の構造実習Ⅰ | | | 1 | | | | |
| 人体の構造実習Ⅱ | | | 1 | | | | |
| 人体の機能Ⅰ | | | 2 | | | | |
| 人体の機能Ⅱ | | | 2 | | | | |
| 病因・病態学Ⅰ | | | 1 | | | | |
| 区 分 | 授 業 科 目 名 | 単 位 数 | 備 考 | | | | |

| | | 必修 | 選択 | | |
|----------------------------|---------|----------------|----|---|--------------------|
| 専 門 教 育 科 目 | 専門基礎 | 病因・病態学Ⅱ | 1 | | 必修24単位＋ 選択7単位以上 |
| | | 臨床医学Ⅰ（医学総論） | 1 | | |
| | | 臨床医学Ⅱ（外科系） | 1 | | |
| | | 臨床医学Ⅲ（内科系1） | 1 | | |
| | | 臨床医学Ⅳ（内科系2） | 1 | | |
| | | リハビリテーション概論 | 1 | | |
| | | リハビリテーション各論 | 1 | | |
| | | 衛生・公衆衛生学Ⅰ | 1 | | |
| | | 衛生・公衆衛生学Ⅱ | 1 | | |
| | | 鍼灸のリスクマネジメント | 1 | | |
| | | 医事法規 | 2 | | |
| | | 疼痛動作の運動学 | 1 | | |
| | | 運動生理学 | | 2 | |
| | | 加齢医学 | | 1 | |
| | | 食品栄養学 | | 1 | |
| | | 臨床心理学 | | 2 | |
| | | 運動器の解剖と機能 | | 1 | |
| | | 予防とコンディショニングⅠ | | 1 | |
| | | 予防とコンディショニングⅡ | | 2 | |
| | | スポーツ心理学 | | 1 | |
| | | トレーニング科学 | | 1 | |
| | | バイオメカニクス | | 1 | |
| | | スポーツ医学Ⅰ | | 1 | |
| | | スポーツ医学Ⅱ | | 1 | |
| | | スポーツ医学Ⅲ | | 1 | |
| | | スポーツリハビリテーションⅠ | | 1 | |
| | | スポーツリハビリテーションⅡ | | 2 | |
| | スポーツと栄養 | | 1 | | |
| | 東洋医学系 | 東洋医学総論Ⅰ | 1 | | 必修36単位＋ 選択6単位以上 |
| | | 東洋医学総論Ⅱ | 2 | | |
| | | 鍼灸基礎実習Ⅰ（鍼基礎） | 1 | | |
| | | 鍼灸基礎実習Ⅱ（灸基礎） | 2 | | |
| | | 鍼灸基礎実習Ⅲ（鍼灸応用1） | 2 | | |
| 鍼灸基礎実習Ⅳ（鍼灸応用2） | | 2 | | | |

左記以外で専門教育科目の選択科目17単位以上

| | | 経穴学Ⅰ（経絡の流注） | 1 | | | |
|----------------------------|-----------|---------------|----|-----|--------------------|------------------------|
| 区 分 | 授 業 科 目 名 | 単 位 数 | | 備 考 | | |
| | | 必修 | 選択 | | | |
| 専 門 教 育 科 目 | 東洋医学系 | 経穴学Ⅱ（要穴1） | 1 | | 必修36単位＋ 選択6単位以上 | 左記以外で専門教育科目の選択科目17単位以上 |
| | | 経穴学Ⅲ（要穴2） | 1 | | | |
| | | 経穴学Ⅳ（要穴以外の経穴） | 1 | | | |
| | | 鍼灸理論Ⅰ（基礎） | 1 | | | |
| | | 鍼灸理論Ⅱ（応用） | 1 | | | |
| | | 東洋医学各論Ⅰ（四診） | 1 | | | |
| | | 東洋医学各論Ⅱ（基礎弁証） | 1 | | | |
| | | 東洋医学各論Ⅲ（応用弁証） | 1 | | | |
| | | 東洋医学各論Ⅳ（治療理論） | 1 | | | |
| | | 鍼灸理学併用療法実習Ⅰ | 1 | | | |
| | | 鍼灸理学併用療法実習Ⅱ | 1 | | | |
| | | 鍼灸治療実習Ⅰ（運動器系） | 2 | | | |
| | | 鍼灸治療実習Ⅱ（神経系） | 2 | | | |
| | | 鍼灸治療実習Ⅲ（内科系） | 2 | | | |
| | | 鍼灸診察法Ⅰ | 2 | | | |
| | | 鍼灸診察法Ⅱ | 2 | | | |
| | | 鍼灸臨床実習Ⅰ | 3 | | | |
| | | 鍼灸臨床実習Ⅱ | 1 | | | |
| | | 鍼灸特殊治療法 | | 2 | | |
| | | 伝統鍼灸学Ⅰ（澤田流） | | 2 | | |
| | | 伝統鍼灸学Ⅱ（経絡治療） | | 2 | | |
| | | トリガーポイント概論 | | 2 | | |
| | | スポーツ鍼灸特論 | | 2 | | |
| | | 経穴・臓象学 | | 2 | | |
| | | レディース鍼灸 | | 2 | | |
| | | 鍼灸美容 | | 2 | | |
| | | 現代鍼灸学 | | 2 | | |
| | | 運動器の触察法 | | 1 | | |
| トリガーポイント鍼療法Ⅰ | | 1 | | | | |
| トリガーポイント鍼療法Ⅱ | | 1 | | | | |
| スポーツ鍼灸治療Ⅰ | | 1 | | | | |
| スポーツ鍼灸治療Ⅱ | | 1 | | | | |

| | | 臓腑経脈治療Ⅰ | | 1 | | |
|------------------------------------|-----------|--------------------|----|-----|-------------------|------------------------|
| | | 臓腑経脈治療Ⅱ | | 1 | | |
| | | 中国手技療法 | | 1 | | |
| 区 分 | 授 業 科 目 名 | 単 位 数 | | 備 考 | | |
| | | 必修 | 選択 | | | |
| 専 門 教 育 科 目 | 総合領域 | 医学概論 | 2 | | 必修8単位＋ 選択6単位以上 | 左記以外で専門教育科目の選択科目17単位以上 |
| | | 総合演習Ⅰ | 1 | | | |
| | | 総合演習Ⅱ | 3 | | | |
| | | 総合ゼミ | 2 | | | |
| | | 和漢診療学 | | 1 | | |
| | | アロマセラピー | | 1 | | |
| | | アスレティックトレーナー概論Ⅰ | | 1 | | |
| | | アスレティックトレーナー概論Ⅱ | | 1 | | |
| | | スポーツ社会学 | | 1 | | |
| | | スポーツコーチング論 | | 1 | | |
| | | スポーツトレーニング論Ⅰ | | 1 | | |
| | | スポーツトレーニング論Ⅱ | | 1 | | |
| | | アスレティックトレーナーの役割 | | 2 | | |
| | | 健康運動実習Ⅰ | | 1 | | |
| | | 健康運動実習Ⅱ | | 1 | | |
| | | 健康管理学 | | 2 | | |
| | | 健康づくり概論 | | 2 | | |
| | | 応急処置実習 | | 1 | | |
| | | フィットネス実習Ⅰ | | 1 | | |
| | | トレーナー見学実習 | | 2 | | |
| | | リハビリテーションプログラミング実習 | | 2 | | |
| | | スポーツ現場実習 | | 2 | | |
| | | スポーツリハビリテーション実習 | | 2 | | |
| | | トレーナー総合実習 | | 2 | | |
| | | アスレティックトレーナー総合演習 | | 1 | | |
| | | インターンシップ実習 | | 1 | | |
| 障がい者スポーツ論 | | 1 | | | | |
| 卒業要件：区分ごとの履修要件を満たし、128単位以上を修得すること。 | | | | | | |

2. 保健医療学部 理学療法学科

| 区分 | 授業科目名 | 単位数 | | 備考 | |
|--------|-----------------|-----------------|----|----|--|
| | | 必修 | 選択 | | |
| 総合教育科目 | 科学的思考の基盤 | 生命のしくみ | | 2 | 科学的思考の基盤分野から6単位以上を選択必修 |
| | | 物質と自然のしくみ | | 2 | |
| | | 生命の化学 | | 2 | |
| | | 情報科学 | | 2 | |
| | 人間と生活 | 生命倫理 | 2 | | 人間と生活分野中、選択科目から7単位以上を選択し、10単位以上を必修 |
| | | 心と身体の健康 | | 2 | |
| | | 環境と健康 | | 2 | |
| | | 東洋医学と西洋医学 | | 2 | |
| | | 生薬の科学 | | 2 | |
| | | スポーツと健康 | | 2 | |
| | | 生涯スポーツⅠ | 1 | | |
| | | 生涯スポーツⅡ | | 1 | |
| | | スポーツ社会学 | | 1 | |
| | | スポーツコーチング論 | | 1 | |
| | | アスレティックトレーナー概論Ⅰ | | 1 | |
| | | アスレティックトレーナー概論Ⅱ | | 1 | |
| | アスレティックトレーナーの役割 | | 2 | | |
| | 言語とコミュニケーション | 英語表現法Ⅰ | 2 | | 言語とコミュニケーション分野中、選択科目から2単位以上を選択し、8単位を必修 |
| | | 英語表現法Ⅱ | 2 | | |
| | | 英語表現法Ⅲ | | 2 | |
| 国語表現法 | | 2 | | | |
| 中国語 | | | 2 | | |
| 専門教育科目 | 人体の構造と機能及び心身の発達 | 人体の構造Ⅰ | 2 | | 専門教育科目中、選択科目から7単位以上を履修し、104単位を必修 |
| | | 人体の構造Ⅱ | 1 | | |
| | | 人体の構造実習 | 1 | | |
| | | 人体の機能Ⅰ | 2 | | |
| | | 人体の機能Ⅱ | 1 | | |
| | | 人体の機能実習 | 1 | | |
| | | 基礎運動学Ⅰ | 1 | | |
| | | 基礎運動学Ⅱ | 1 | | |

| | | | | |
|--|---------|---|--|--|
| | 基礎運動学実習 | 1 | | |
| | 人間発達学 | 2 | | |

| 区 分 | 授 業 科 目 名 | 単位数 | | 備 考 | |
|----------------------------|--------------------------|-------------|----|----------------------------------|--|
| | | 必修 | 選択 | | |
| 専 門 教 育 科 目 | 医学概論 | 2 | | 専門教育科目中、選択科目から7単位以上を履修し、104単位を必修 | |
| | 衛生・公衆衛生学Ⅰ | 1 | | | |
| | 衛生・公衆衛生学Ⅱ | | 1 | | |
| | 病因・病態学Ⅰ | 1 | | | |
| | 病因・病態学Ⅱ | 2 | | | |
| | 免疫学 | | 1 | | |
| | 内科診断学 | 2 | | | |
| | 内科各論 | | 2 | | |
| | 外科診断学 | 1 | | | |
| | 外科各論 | | 2 | | |
| | 整形外科学 | 1 | | | |
| | 神経内科学 | 1 | | | |
| | 臨床心理学概論 | 1 | | | |
| | 心身医学 | | 1 | | |
| | 加齢医学（老年医学） | | 1 | | |
| | 小児・産婦人科学 | | 1 | | |
| | 皮膚科・感覚機能医学 | | 1 | | |
| | 麻酔蘇生学 | | 1 | | |
| | 食品栄養学 | | 1 | | |
| | 臨床生理学 | | 1 | | |
| | 医学推計学 | | 1 | | |
| | 保健医療福祉 とリハビリテ ーション | リハビリテーション概論 | 1 | | |
| | | 保健医療福祉概論 | 1 | | |
| | 基礎理学 療法学 | 理学療法概論 | 1 | | |
| | | 運動療法概論Ⅰ | 1 | | |
| | | 運動療法概論Ⅱ | 1 | | |
| | | 運動療法概論実習 | 1 | | |
| | | 日常生活活動学 | 1 | | |
| 動作分析学 | | 1 | | | |
| 感染管理学 | | 1 | | | |

| | | 安全管理学 | 1 | | |
|----------------------------|-------------|-------------|-------|----|----------------------------------|
| | 理学療法 評価学 | 評価学総論Ⅰ | 1 | | |
| | | 評価学総論Ⅱ | 1 | | |
| 区 分 | | 授 業 科 目 名 | 単 位 数 | | 備 考 |
| | | | 必修 | 選択 | |
| 専 門 教 育 科 目 | 理学療法 評価学 | 評価学実習Ⅰ | 1 | | 専門教育科目中、選択科目から7単位以上を履修し、104単位を必修 |
| | | 評価学実習Ⅱ | 1 | | |
| | | 検査測定学 | 1 | | |
| | 理学療法 治療学 | 骨関節疾患理学療法学Ⅰ | 1 | | |
| | | 骨関節疾患理学療法学Ⅱ | 1 | | |
| | | 骨関節疾患理学療法学Ⅲ | 2 | | |
| | | 脳血管障害理学療法学Ⅰ | 1 | | |
| | | 脳血管障害理学療法学Ⅱ | 1 | | |
| | | 脳血管障害理学療法学Ⅲ | 2 | | |
| | | 神経筋疾患理学療法学Ⅰ | 1 | | |
| | | 神経筋疾患理学療法学Ⅱ | 1 | | |
| | | 小児疾患理学療法学Ⅰ | 1 | | |
| | | 小児疾患理学療法学Ⅱ | 1 | | |
| | | 脊髄損傷理学療法学 | 1 | | |
| | | 老人理学療法学 | 1 | | |
| | | 内部障害理学療法学 | 1 | | |
| | | 義肢装具学 | 1 | | |
| | | 義肢装具学実習 | 1 | | |
| | | 物理療法学 | 1 | | |
| | | 物理療法学実習 | 1 | | |
| | 総合理学療法学 | 1 | | | |
| | 地域理学 療法学 | 地域理学療法学総論 | 2 | | |
| | | 地域理学療法学各論 | 2 | | |
| | 臨 床 実 習 | 臨床評価実習 | 2 | | |
| | | 理学療法臨床実習Ⅰ | 6 | | |
| | | 理学療法臨床実習Ⅱ | 6 | | |
| | | 理学療法臨床実習Ⅲ | 6 | | |
| 理学療法臨床セミナー | | 2 | | | |
| 発 展 科 目 | 東洋医学概論 | 1 | | | |
| | 東洋医学と理学療法特論 | 1 | | | |

| | | | | |
|--|------------|---|--|--|
| | 神経難病理学療法特論 | 1 | | |
| | 精神疾患理学療法特論 | 1 | | |

| 区 分 | 授 業 科 目 名 | 単 位 数 | | 備 考 |
|----------------------------|-----------|------------|----|----------------------------------|
| | | 必修 | 選択 | |
| 専 門 教 育 科 目 | 発 展 科 目 | スポーツ理学療法特論 | 1 | 専門教育科目中、選択科目から7単位以上を履修し、104単位を必修 |
| | | 基礎ゼミⅠ | 1 | |
| | | 基礎ゼミⅡ | 1 | |
| | | 理学療法研究法 | 4 | |

卒業要件：区分ごとの履修要件を満たし、128単位以上を修得すること。

3. 保健医療学部 作業療法学科

| 区 分 | 授 業 科 目 名 | 単 位 数 | | 備 考 | |
|----------------------------|------------------|---------------|----|-------|-------------------|
| | | 必修 | 選択 | | |
| 総 合 教 育 科 目 | 東洋医療の基礎・導入教育 | 1 | | 必修1単位 | |
| | 科学的思考 の基盤 | 科学の基礎 | | 1 | 選択科目から6単位以上を選択 |
| | | 統計学の基礎 | | 1 | |
| | | 情報科学 | | 2 | |
| | | 生命のしくみ | | 2 | |
| | | 物質と自然のしくみ | | 2 | |
| | | 生命の化学 | | 2 | |
| | 人間と生活 | 生命倫理 | 2 | | 必修3単位＋ 選択7単位以上 |
| | | 法の基礎知識（日本国憲法） | | 2 | |
| | | 心理学 | | 2 | |
| | | スポーツと健康 | | 2 | |
| | | 生涯スポーツⅠ | 1 | | |
| | | 生涯スポーツⅡ | | 1 | |
| | | 社会学 | | 2 | |
| | | 社会福祉論 | | 2 | |
| | 言語とコミュ ニケーション | 英語表現法Ⅰ | 1 | | 必修3単位＋ 選択4単位以上 |
| 英語表現法Ⅱ | | 1 | | | |
| 英語表現法Ⅲ | | 1 | | | |
| 英語表現法Ⅳ | | | 1 | | |

| | | | | | |
|----------------|----------|-------------------------|---------|---|--------|
| | | 医療英語 | | 1 | |
| | | 国語表現法 | | 1 | |
| | | コミュニケーション学 | | 1 | |
| | | 手話 | | 1 | |
| 専門 教育 科目 | 専門 基礎 | 人体の構造 と機能及び 心身の発達 | 人体の構造Ⅰ | 2 | 必修13単位 |
| | | | 人体の構造Ⅱ | 1 | |
| | | | 人体の構造演習 | 1 | |
| | | | 人体の機能Ⅰ | 2 | |
| | | | 人体の機能Ⅱ | 1 | |
| | | | 人体の機能演習 | 1 | |
| | | | 基礎運動学Ⅰ | 1 | |
| | | | 基礎運動学Ⅱ | 1 | |
| | | | 基礎運動学演習 | 1 | |
| | | | 人間発達学 | 2 | |

| 区 分 | | 授 業 科 目 名 | 単 位 数 | | 備 考 |
|----------------|----------|------------|-------|----|--------------------|
| | | | 必修 | 選択 | |
| 専門 教育 科目 | 専門 基礎 | 医学概論 | 2 | | 必修14単位＋ 選択3単位以上 |
| | | 衛生・公衆衛生学Ⅰ | 1 | | |
| | | 衛生・公衆衛生学Ⅱ | | 1 | |
| | | 病因・病態学Ⅰ | 1 | | |
| | | 病因・病態学Ⅱ | 1 | | |
| | | 臨床疾患学（内科） | 1 | | |
| | | 臨床疾患学（外科） | 1 | | |
| | | 整形外科学 | 1 | | |
| | | 神経内科学 | 1 | | |
| | | 臨床心理学概論 | 1 | | |
| | | 精神医学 | 1 | | |
| | | 画像解析学概論 | 1 | | |
| | | 加齢医学 | 1 | | |
| | | 皮膚科・感覚機能医学 | | 1 | |
| | | 免疫学 | | 1 | |
| | | 食品栄養学 | | 1 | |
| | | 臨床生理学 | | 1 | |
| 医療統計 | 1 | | | | |

| | | | | |
|----------|------------------|-------------|---|--------|
| 作業療法専門 | 保健医療福祉とリハビリテーション | リハビリテーション概論 | 1 | 必修2単位 |
| | | 保健医療福祉概論 | 1 | |
| | 基礎作業療法学 | 作業療法学概論 | 2 | 必修12単位 |
| | | 作業療法理論 | 2 | |
| | | 基礎作業学 | 1 | |
| | | 日常生活活動学概論 | 1 | |
| | | 精神疾患とその障害 | 1 | |
| | | 小児期の疾患とその障害 | 1 | |
| | | 作業療法管理学 | 1 | |
| | | 動作解析学 | 1 | |
| | | 作業療法安全管理学 | 1 | |
| 作業療法総合ゼミ | 1 | | | |

| 区分 | 授業科目名 | 単位数 | | 備考 |
|--------|---------|------------------|----|--------|
| | | 必修 | 選択 | |
| 専門教育科目 | 作業療法評価学 | 作業療法評価学総論 | 1 | 必修7単位 |
| | | 身体障害作業療法評価学 | 1 | |
| | | 精神障害作業療法評価学 | 1 | |
| | | 発達障害作業療法評価学 | 1 | |
| | | 老年期障害作業療法評価学 | 1 | |
| | | 日常生活活動作業療法評価学 | 1 | |
| | | 高次脳機能障害作業療法評価学 | 1 | |
| | 作業治療学 | 身体障害作業療法治療学 | 1 | 必修20単位 |
| | | 身体障害作業療法治療学演習 | 1 | |
| | | 精神障害作業療法治療学 | 1 | |
| | | 精神障害作業療法治療学演習 | 1 | |
| | | 発達障害作業療法治療学 | 1 | |
| | | 発達障害作業療法治療学演習 | 1 | |
| | | 老年期障害作業療法治療学 | 1 | |
| | | 老年期障害作業療法治療学演習 | 1 | |
| | | 日常生活活動作業療法治療学 | 1 | |
| | | 日常生活活動作業療法治療学演習 | 1 | |
| | | 高次脳機能障害作業療法治療学 | 1 | |
| | | 高次脳機能障害作業療法治療学演習 | 1 | |

| | | | | | |
|--|---------|----------------------|---|--|-------|
| | | 内部障害作業療法治療学 | 1 | | |
| | | 義肢・装具学 | 1 | | |
| | | リハビリテーション支援機器概論 | 1 | | |
| | | 就学・就労支援概論 | 2 | | |
| | | セラピューティック・レクリエーション概論 | 1 | | |
| | | 認知行動療法 | 1 | | |
| | | カウンセリング技法 | 1 | | |
| | 地域作業療法学 | 地域作業療法学総論 | 2 | | 必修4単位 |
| | | 地域作業療法学各論 | 2 | | |

| 区 分 | | 授 業 科 目 名 | 単位数 | | 備 考 | |
|----------------------------|----------------------------|-----------|--------------------------|----|--------|-------------------|
| | | | 必修 | 選択 | | |
| 専 門 教 育 科 目 | 作 業 療 法 専 門 | 臨床実習 | 臨床実習Ⅰ | 1 | 必修22単位 | |
| | | | 臨床実習Ⅱ | 5 | | |
| | | | 臨床実習Ⅲ | 7 | | |
| | | | 臨床実習Ⅳ | 7 | | |
| | | | 臨床実習評価セミナー | 1 | | |
| | | | 臨床実習総合セミナー | 1 | | |
| | 発 展 科 目 | | 表現思考型学習 | | 1 | 必修4単位＋ 選択3単位以上 |
| | | | 国際リハビリテーション学総論 | | 1 | |
| | | | 国際リハビリテーション学各論 | | 2 | |
| | | | スポーツリハビリテーション概論 | | 1 | |
| | | | 専門職連携概論 | 1 | | |
| | | | 芸術療法概論 | | 1 | |
| | | | 代替療法概論 | | 1 | |
| | | | 東洋医学概論 | | 1 | |
| | | | キャリアサポートとワークライフ バランス論 | | 1 | |
| | | | 作業科学概論 | | 1 | |
| | | | 英文献講読 | | 1 | |
| | | | 研究法入門 | 1 | | |
| | | | 研究法応用 | 2 | | |

卒業要件：区分ごとの履修要件を満たし、128単位以上を修得すること。

4. 保健医療学部 ヘルスプロモーション整復学科

| 区 分 | 授 業 科 目 名 | 単位数 | | 備 考 | | |
|----------------------------|----------------------------|---------------|--------|-----|----------------------|----------|
| | | 必修 | 選択 | | | |
| 総 合 教 育 科 目 | | 東洋医療の基礎・導入教育 | 1 | | 必修 1 単位 | |
| | 科学的思考の 基盤 | 科学の基礎 | | 1 | 選択科目から 6 単位以上を 選択 | |
| | | 統計学の基礎 | | 1 | | |
| | | 情報科学 | | 2 | | |
| | | 生命のしくみ | | 2 | | |
| | | 物質と自然のしくみ | | 2 | | |
| | | 生命の化学 | | 2 | | |
| | 人間と生活 | 生命倫理 | 2 | | 必修 3 単位 + 選択 7 単位以上 | |
| | | 日本国憲法（法の基礎知識） | | 2 | | |
| | | 心理学 | | 2 | | |
| | | スポーツと健康 | | 2 | | |
| | | 生涯スポーツⅠ | 1 | | | |
| | | 生涯スポーツⅡ | | 1 | | |
| | | 社会学 | | 2 | | |
| | | 社会福祉論 | | 2 | | |
| | | 教育学 | | 2 | | |
| | 言語とコミュニ ケーション | 英語表現法Ⅰ | 1 | | 必修 5 単位 + 選択 2 単位以上 | |
| | | 英語表現法Ⅱ | 1 | | | |
| | | 英語表現法Ⅲ | 1 | | | |
| | | 英語表現法Ⅳ | | 1 | | |
| | | 医療英語 | | 2 | | |
| | | 国語表現法 | 1 | | | |
| | | 中国語Ⅰ | | 1 | | |
| | | 中国語Ⅱ | | 1 | | |
| | | コミュニケーション学 | 1 | | | |
| | 専 門 教 育 科 目 | 人体の構造と 機能 | 人体の構造Ⅰ | 2 | | 必修 16 単位 |
| | | | 人体の構造Ⅱ | 2 | | |
| 人体の構造実習 | | | 2 | | | |
| 人体の機能Ⅰ | | | 2 | | | |
| 人体の機能Ⅱ | | | 1 | | | |
| 人体の機能実習 | | | 1 | | | |
| 運動生理学 | | | 2 | | | |
| 基礎運動学 | | | 2 | | | |
| 応用生理学 | | | 2 | | | |

| | | | | |
|----------------------------|------------------------|-----------------|---|----------|
| 専 門 教 育 科 目 | 疾病と傷害 | 病因・病態学Ⅰ | 1 | 必修 11 単位 |
| | | 病因・病態学Ⅱ | 1 | |
| | | 内科診断学 | 2 | |
| | | 内科各論 | 1 | |
| | | 外科各論 | 2 | |
| | | 整形外科学 | 1 | |
| | | リハビリテーション論Ⅰ | 1 | |
| | | リハビリテーション論Ⅱ | 2 | |
| | 保健医療福祉 と柔道整復の 理念 | 保健医療福祉概論 | 1 | 必修 8 単位 |
| | | 療養費と法の基礎 | 1 | |
| | | 柔道整復関係法規 | 2 | |
| | | 衛生・公衆衛生学Ⅰ | 1 | |
| | | 衛生・公衆衛生学Ⅱ | 1 | |
| | | 柔道実技 | 2 | |
| | 基礎・臨床整 復学 | 整復学総論 | 2 | 必修 26 単位 |
| | | 頭部・胸部・上肢帯整復学 | 2 | |
| | | 脊柱・上肢近位部整復学 | 2 | |
| | | 上肢遠位部整復学 | 2 | |
| | | 骨盤・下肢近位部整復学 | 2 | |
| | | 下肢遠位部整復学 | 2 | |
| | | 軟部組織整復学 | 2 | |
| | | 画像診断学 | 2 | |
| | | 整復評価学 | 2 | |
| | | 臨床整復学 | 2 | |
| | | 整復総合演習Ⅰ | 2 | |
| | | 整復総合演習Ⅱ | 2 | |
| | | 整復総合演習Ⅲ | 2 | |
| 整復実技 | | 頭部・胸部・上肢帯整復学実技Ⅰ | 1 | |
| | 頭部・胸部・上肢帯整復学実技Ⅱ | 1 | | |
| | 脊柱・上肢近位部整復学実技Ⅰ | 1 | | |
| | 脊柱・上肢近位部整復学実技Ⅱ | 1 | | |
| | 上肢遠位部整復学実技Ⅰ | 1 | | |
| | 上肢遠位部整復学実技Ⅱ | 1 | | |

| 区 分 | 授 業 科 目 名 | 単位数 | | 備 考 |
|-----|-----------|---------------|----|-----|
| | | 必修 | 選択 | |
| 専 | 整復実技 | 骨盤・下肢近位部整復学実技 | 1 | |

| | | | | | |
|-----------------------|--|------------------|---|---|-------------------------|
| 門 教 育 科 目 | | 下肢遠位部整復学実技 | 1 | | 必修 21 単位 |
| | | 軟部組織整復学実技 | 2 | | |
| | | 整復臨床実習Ⅰ | 2 | | |
| | | 整復臨床実習Ⅱ | 2 | | |
| | | 整復治療学Ⅰ（徒手療法基本実技） | 1 | | |
| | | 整復治療学Ⅱ（徒手療法応用実技） | 1 | | |
| | | 整復治療学Ⅲ（テーピング実技） | 1 | | |
| | | 整復治療学Ⅳ（後療法総合） | 2 | | |
| | | 包帯学Ⅰ | 1 | | |
| | | 包帯学Ⅱ | 1 | | |
| 医療複合 | | 医学概論 | 2 | | 必修 7 単位 + 選択 15 単位以上 |
| | | 健康管理学 | 2 | | |
| | | リスクマネジメント論 | 2 | | |
| | | 高齢者ケア論 | 1 | | |
| | | 薬学概論 | | 1 | |
| | | 統合医療（代替医療）Ⅰ | | 2 | |
| | | 統合医療（代替医療）Ⅱ | | 2 | |
| | | 応急処置実習 | | 1 | |
| | | 臨床疫学 | | 2 | |
| | | 神経科学 | | 1 | |
| | | 中医学概論 | | 2 | |
| | | 医療経営学 | | 2 | |
| | | 子どもの健康と看護 | | 1 | |
| | | 救急医療と看護 | | 1 | |
| | | 動作分析学 | | 1 | |
| 健康・スポーツ科学 | | 臨床心理学概論 | | 1 | |
| | | 食品栄養学 | | 1 | |
| | | 健康づくり概論 | | 2 | |
| | | 健康運動実習Ⅰ | | 1 | |
| | | 健康運動実習Ⅱ | | 1 | |
| | | 健康スポーツ理論 | | 2 | |
| | | アスレティックトレーナー概論Ⅰ | | 1 | |
| | | アスレティックトレーナー概論Ⅱ | | 1 | |

| 区 分 | 授 業 科 目 名 | 単 位 数 | 備 考 |
|-----|-----------|-------|-----|
|-----|-----------|-------|-----|

| | | 必修 | 選択 | | |
|------------------------------------|-----------|---------------|----|---|--------------------|
| 専門 教育 科目 | 健康・スポーツ科学 | スポーツトレーニング論Ⅰ | | 1 | 必修7単位 +選択15単位以上 |
| | | スポーツトレーニング論Ⅱ | | 1 | |
| | | スポーツコーチング論 | | 1 | |
| | | スポーツ社会学 | | 1 | |
| | | フィットネス実習Ⅰ | | 1 | |
| | | フィットネス実習Ⅱ | | 1 | |
| | | スポーツ理学療法特論 | | 1 | |
| | | アロマセラピー | | 2 | |
| | | マイオケア（トリガー理論） | | 2 | |
| | | リフレクソロジー | | 1 | |
| | | ヨーガ | | 1 | |
| | | 太極拳 | | 1 | |
| 卒業要件：区分ごとの履修要件を満たし、128単位以上を修得すること。 | | | | | |

5. 保健医療学部 臨床検査学科

| 区 分 | 授 業 科 目 名 | 単位数 | | 備 考 | |
|----------------|--------------|---------------|----|-------|-------------------|
| | | 必修 | 選択 | | |
| 総合 教育 科目 | 東洋医療の基礎・導入教育 | 1 | | 必修1単位 | |
| | 科学的思考 の基盤 | 科学の基礎 | | 1 | 必修4単位+選択2単位 以上 |
| | | 統計学の基礎 | | 1 | |
| | | 情報科学 | | 2 | |
| | | 生命のしくみ | 2 | | |
| | | 物質と自然のしくみ | | 2 | |
| | | 生命の化学 | 2 | | |
| | 人間と生活 | 生命倫理 | 2 | | 必修2単位+選択8単位 以上 |
| | | 日本国憲法（法の基礎知識） | | 2 | |
| | | 心理学 | | 2 | |
| | | スポーツと健康 | | 2 | |
| | | 生涯スポーツⅠ | | 1 | |
| | | 生涯スポーツⅡ | | 1 | |
| | | 社会学 | | 2 | |
| | | 社会福祉論 | | 2 | |
| | | 教育学 | | 2 | |

| | | | | | | |
|--------|--------------|---------|---|---|---------------|------------------------|
| | 言語とコミュニケーション | 英語表現法Ⅰ | 1 | | 必修3単位+選択4単位以上 | |
| | | 英語表現法Ⅱ | 1 | | | |
| | | 英語表現法Ⅲ | 1 | | | |
| | | 英語表現法Ⅳ | | 1 | | |
| | | 医学英語 | | 2 | | |
| | | 国語表現法 | | 1 | | |
| | | 中国語Ⅰ | | 1 | | |
| | | 中国語Ⅱ | | 1 | | |
| 専門教育科目 | 基礎医学 | 人体の構造Ⅰ | 1 | | 必修21単位 | 左記以外で専門教育科目の選択科目18単位以上 |
| | | 人体の構造Ⅱ | 2 | | | |
| | | 人体の構造実習 | 1 | | | |
| | | 人体の機能Ⅰ | 1 | | | |
| | | 人体の機能Ⅱ | 2 | | | |
| | | 人体の機能実習 | 1 | | | |
| | | 公衆衛生学 | 2 | | | |
| | | 生化学Ⅰ | 1 | | | |
| | | 生化学Ⅱ | 2 | | | |
| | | 病理学 | 1 | | | |

| 区分 | 授業科目名 | 単位数 | | 備考 | | |
|--------|-------|----------|----|----|--------------|--------|
| | | 必修 | 選択 | | | |
| 専門教育科目 | 基礎医学 | 病理診断学 | 2 | | 左記以外で専門教育科目の | |
| | | 分析化学 | | 2 | | |
| | | 薬理学 | 2 | | | |
| | | 医用工学概論 | 2 | | | |
| | | 医工情報学実習 | 1 | | | |
| | 臨床検査学 | 臨床検査学の基礎 | 2 | | | 必修59単位 |
| | | 臨床検査総論 | 2 | | | |
| | | 血液検査学Ⅰ | 2 | | | |
| | | 血液検査学Ⅱ | 2 | | | |

| | | | | | |
|----------|------------|---|--|--|----------------|
| | 血液検査学実習 | 1 | | | 選択科目 18単位以上 |
| | 生理機能検査学Ⅰ | 2 | | | |
| | 生理機能検査学Ⅱ | 2 | | | |
| | 生理機能検査学Ⅲ | 2 | | | |
| | 生理機能検査学実習Ⅰ | 1 | | | |
| | 生理機能検査学実習Ⅱ | 1 | | | |
| | 臨床化学検査学Ⅰ | 2 | | | |
| | 臨床化学検査学Ⅱ | 2 | | | |
| | 臨床化学検査学実習 | 1 | | | |
| | 一般検査学 | 2 | | | |
| | 一般検査学実習 | 1 | | | |
| | 輸血・移植検査学Ⅰ | 2 | | | |
| | 輸血・移植検査学Ⅱ | 1 | | | |
| | 輸血・移植検査学実習 | 1 | | | |
| | 免疫検査学Ⅰ | 2 | | | |
| | 免疫検査学Ⅱ | 1 | | | |
| | 免疫検査学実習 | 1 | | | |
| | 基礎微生物学 | 1 | | | |
| | 微生物検査学Ⅰ | 2 | | | |
| | 微生物検査学Ⅱ | 2 | | | |
| 微生物検査学実習 | 2 | | | | |
| 病理検査学 | 2 | | | | |
| 病理検査学実習 | 1 | | | | |
| 画像検査学 | 2 | | | | |

| 区 分 | 授 業 科 目 名 | 単位数 | | 備 考 |
|-----|-----------|-----|----|-------------|
| | | 必修 | 選択 | |
| | 遺伝子検査学 | 2 | | 左記以外で専門教育科目 |
| | 遺伝子検査学実習 | 1 | | |
| | 検査総合管理学 | 2 | | |
| | 医療安全管理学 | 2 | | |
| | 医動物検査学 | 1 | | |
| | 臨床病態学Ⅰ | 2 | | |
| | 臨床病態学Ⅱ | 2 | | |
| | 関係法規 | 1 | | |

| | | | | | |
|-------|------------|---|-----|---|-------|
| | 総合演習Ⅰ | | 2 | の 選 択 科 目 1 8 単 位 以 上 | |
| | 総合演習Ⅱ | | 2 | | |
| | 臨床検査学特論 | 1 | | | |
| | 総合検査技術演習 | | 1 | | |
| | 臨地実習 | | 1 1 | | |
| 細胞診断学 | 細胞診断学 | 1 | | | 必修2単位 |
| | 細胞診断学実習 | 1 | | | |
| | 細胞診断学特論Ⅰ | | 3 | | |
| | 細胞診断学特論Ⅱ | | 3 | | |
| | 細胞診断学特別実習Ⅰ | | 3 | | |
| | 細胞診断学特別実習Ⅱ | | 3 | | |
| | 細胞診断学特別実習Ⅲ | | 3 | | |
| | 細胞診断学特別実習Ⅳ | | 3 | | |
| 総合領域 | 医学概論 | 2 | | 必修4単位 | |
| | 食品栄養学 | 2 | | | |
| | 食品管理学 | | 2 | | |
| | エキスパート検査学 | | 2 | | |

卒業要件：区分ごとの履修要件を満たし、128単位以上を修得すること。

6. 保健看護学部 保健看護学科

| 区 分 | 授 業 科 目 名 | 単 位 数 | | 備 考 | |
|----------------------------|--------------|---------------|----|-------|-------------------|
| | | 必修 | 選択 | | |
| 総 合 教 育 科 目 | 東洋医療の基礎・導入教育 | 1 | | 必修1単位 | |
| | 科学的思考 の基盤 | 科学の基礎 | | 1 | 選択6単位以上 |
| | | 統計学の基礎 | | 1 | |
| | | 情報科学 | | 2 | |
| | | 生命のしくみ | | 2 | |
| | | 物質と自然のしくみ | | 2 | |
| | | 生命の化学 | | 2 | |
| | 人間と生活 | 生命倫理 | 2 | | 必修2単位+選択8単位 以上 |
| | | 日本国憲法（法の基礎知識） | | 2 | |
| | | 心理学 | | 2 | |
| | | スポーツと健康 | | 2 | |
| | | 生涯スポーツⅠ | | 1 | |
| | | 生涯スポーツⅡ | | 1 | |

| | | | | | | |
|--------|--------|---------------------------|----------------|---|---|--|
| | | | 社会学 | | 2 | 必修4単位+選択3単位以上 |
| | | | 社会福祉論 | | 2 | |
| | | | 教育学 | | 2 | |
| | | | 英語表現法Ⅰ | 1 | | |
| | | | 英語表現法Ⅱ | 1 | | |
| | | | 英語表現法Ⅲ | 1 | | |
| | | | 英語表現法Ⅳ | | 1 | |
| | | | 医療英語 | | 1 | |
| | | | 国語表現法 | | 1 | |
| | | | コミュニケーション学 | 1 | | |
| 手話 | | 1 | | | | |
| 専門教育科目 | 看護専門基礎 | 看護に いかす 心と体 のしくみ | 人体の構造Ⅰ | 1 | | 必修22単位+選択3単位以上 ※保健師選択学生は疫学・保健統計学演習・保健医療福祉政策論は必修 |
| | | | 人体の構造Ⅱ | 1 | | |
| | | | 人体の機能Ⅰ | 1 | | |
| | | | 人体の機能Ⅱ | 1 | | |
| | | | 生体を構成する物質とはたらき | 1 | | |
| | | | 人間の発達 | 1 | | |
| | | | 日常生活活動学（ADL） | | 1 | |

| 区分 | 授業科目名 | 単位数 | | 備考 | |
|--------|---|-------------------|----|----|--|
| | | 必修 | 選択 | | |
| 専門教育科目 | 看護に いかす 疾病の 成り立ちと 回復の 促進 | 看護にいかす病因・病態学 | 1 | | |
| | | 看護にいかす疾病論Ⅰ（急性期） | 2 | | |
| | | 看護にいかす疾病論Ⅱ（慢性期） | 2 | | |
| | | 看護にいかす疾病論Ⅲ（精神） | 1 | | |
| | | 看護にいかす疾病論Ⅳ（母性・小児） | 1 | | |
| | | 看護にいかす疾病論Ⅴ（老年） | 1 | | |
| | | 看護とくすり | 2 | | |
| | 看護に いかす 生活と 保健 | 食生活と健康 | | 2 | |
| | | カウンセリング論 | | 2 | |
| | | 保健・医療・福祉制度論 | 2 | | |
| | | 疫学 | | 2 | |
| | | 保健統計学 | 2 | | |
| | | 保健統計学演習 | | 2 | |
| | | 保健医療福祉政策論 | | 2 | |

| | | | | | |
|----------|----------|--------------------|---|--|--|
| | | 公衆衛生学 | 2 | | |
| 看護専門 | 基礎看護学分野 | 看護学概論 | 2 | | 必修75単位+選択4単位以上 ※保健師選択学生は公衆衛生看護学分野の全ての科目は必修 助産師選択学生は助産学分野の全ての科目と子育て支援論は必修 |
| | | 看護活動と理論 | 1 | | |
| | | フィジカルアセスメントⅠ | 1 | | |
| | | フィジカルアセスメントⅡ | 1 | | |
| | | 看護過程論 | 2 | | |
| | | 基礎看護技術論Ⅰ（共通技術） | 1 | | |
| | | 基礎看護技術論Ⅱ（日常生活援助技術） | 1 | | |
| | | 基礎看護技術論Ⅲ（診療の補助技術） | 1 | | |
| | | 臨床看護実践論 | 1 | | |
| | | 基礎看護学実習Ⅰ | 1 | | |
| | 基礎看護学実習Ⅱ | 2 | | | |
| | 成育看護学分野 | 女性の健康と看護 | 1 | | |
| | | 母性看護方法論Ⅰ | 1 | | |
| | | 母性看護方法論Ⅱ | 1 | | |
| | | 母性看護展開論 | 1 | | |
| | | 子どもの健康と看護 | 1 | | |
| 小児看護方法論Ⅰ | | 1 | | | |

| 区分 | | 授業科目名 | 単位数 | | 備考 |
|--------|-----------|-------------------|-----|----|----|
| | | | 必修 | 選択 | |
| 専門教育科目 | 成育看護学分野 | 小児看護方法論Ⅱ | 1 | | |
| | | 小児看護展開論 | 1 | | |
| | | 母性看護学実習 | 2 | | |
| | | 小児看護学実習 | 2 | | |
| | 臨床実践看護学分野 | 成人期の健康と看護 | 1 | | |
| | | 成人期の健康回復支援論 | 2 | | |
| | | 成人看護実践論Ⅰ（急性期・回復期） | 1 | | |
| | | 成人看護実践論Ⅱ（慢性期・終末期） | 1 | | |
| | | 成人看護展開論 | 1 | | |
| | | 心の健康と看護 | 1 | | |
| | | 精神看護方法論Ⅰ | 1 | | |
| | | 精神看護方法論Ⅱ | 1 | | |
| | | 精神看護展開論 | 1 | | |

| | | | | |
|--|--------------|--------------|---|--|
| | | 成人看護学実習Ⅰ | 3 | |
| | | 成人看護学実習Ⅱ | 3 | |
| | | 精神看護学実習 | 2 | |
| | 老年・在宅実践看護学分野 | くらしと看護 | 2 | |
| | | 老年期の健康と看護 | 1 | |
| | | 老年看護方法論Ⅰ | 1 | |
| | | 老年看護方法論Ⅱ | 1 | |
| | | 老年看護展開論 | 1 | |
| | | 地域ふれあい実習 | 1 | |
| | | 老年看護学実習 | 2 | |
| | | 在宅療養と看護 | 1 | |
| | | 在宅看護方法論Ⅰ | 1 | |
| | | 在宅看護方法論Ⅱ | 1 | |
| | | 在宅看護展開論 | 1 | |
| | | 在宅看護学実習 | 2 | |
| | | 公衆衛生看護学概論 | 2 | |
| | | 健康教育論 | 1 | |
| | | ライフサイクルと保健活動 | 2 | |
| | | 地域看護学実習 | 1 | |

| 区 分 | | 授 業 科 目 名 | 単 位 数 | | 備 考 |
|-------------|---------------------|-------------------|------------|----|-----|
| | | | 必修 | 選択 | |
| 専 門 教 育 科 目 | 看 護 の 統 合 と 専 門 展 開 | 総 合 実 践 看 護 学 分 野 | 看護倫理学 | 1 | |
| | | | 看護マネジメント論 | 1 | |
| | | | リスクマネジメント論 | 1 | |
| | | | 災害・国際看護論 | 1 | |
| | | | 研究方法論基礎 | 2 | |
| | | | 総合看護学演習 | 2 | |
| | | | 総合看護学実習 | 2 | |
| | 公 衆 衛 生 看 護 学 分 野 | 障害者と感染症の保健活動 | | 2 | |
| | | 家族看護論 | | 1 | |
| | | 子育て支援論 | | 1 | |
| | | 公衆衛生看護支援論 | | 2 | |
| | | 公衆衛生看護計画論 | | 2 | |
| | | 学校保健論 | | 1 | |
| | | 産業保健論 | | 1 | |

| | | | | |
|--|-------------------|--------------------------|--|-----|
| | | 公衆衛生看護管理論 | | 1 |
| | | 公衆衛生看護学実習 | | 5 |
| | | 公衆衛生看護学研究 | | 2 |
| | 助産学 分野 | 助産学概論 | | 1 |
| | | 助産診断・技術学Ⅰ（妊娠期） | | 2 |
| | | 助産診断・技術学Ⅱ（分娩期） | | 2 |
| | | 助産診断・技術学Ⅲ（産褥期） | | 2 |
| | | 助産診断・技術学Ⅳ（ハイリスク妊産褥婦・新生児） | | 2 |
| | | 助産診断演習 | | 1 |
| | | 助産技術演習 | | 1 |
| | | 助産管理Ⅰ | | 1 |
| | | 助産管理Ⅱ | | 1 |
| | | 助産学実習 | | 1 1 |
| | | 助産学研究 | | 2 |
| | 看護学 専門展開 分野 | 看護にいかすツボ刺激 | | 1 |
| | | 看護にいかすアロマセラピー | | 1 |
| | | 看護にいかす手技療法 | | 1 |

| 区 分 | | 授 業 科 目 名 | 単 位 数 | | 備 考 |
|----------------------------|--|-----------|-------|----|-----|
| | | | 必修 | 選択 | |
| 専 門 教 育 科 目 | 看 護 の 統 合 と 専 門 展 開 | ケアマネジメント論 | | 1 | |
| | | チーム医療論 | | 1 | |
| | | 看護学研究 | | 2 | |

卒業要件：区分ごとの履修要件を満たし、128単位以上を修得すること。

別表第2 学生納付金（第33条・第34条関係）

| 項 目 | | 1 年 次 | 2 年 次 以 降 |
|--------------|--------|-----------------|------------|
| 入 学 金（全学科共通） | | 200,000円 | — |
| 授 業 料 | 保健医療学部 | はり灸・スポーツトレーナー学科 | 1,200,000円 |
| | | 理学療法学科 | 1,200,000円 |
| | | 作業療法学科 | 1,200,000円 |

| | | | | |
|--|--------|-----------------|------------|------------|
| | | ヘルスプロモーション整復学科 | 1,200,000円 | 1,200,000円 |
| | | 臨床検査学科 | 1,200,000円 | 1,200,000円 |
| | 保健看護学部 | 保健看護学科 | 1,200,000円 | 1,200,000円 |
| 施設費 | 保健医療学部 | はり灸・スポーツトレーナー学科 | 600,000円 | 650,000円 |
| | | 理学療法学科 | 400,000円 | 450,000円 |
| | | 作業療法学科 | 400,000円 | 450,000円 |
| | | ヘルスプロモーション整復学科 | 400,000円 | 450,000円 |
| | | 臨床検査学科 | 400,000円 | 450,000円 |
| | 保健看護学部 | 保健看護学科 | 440,000円 | 490,000円 |
| 納入期日 前期 4月20日 後期 10月20日 (納入期日が金融機関の休業日にあたる場合はその前日とする) | | | | |

- 1 入学金は入学手続き時に納入する。
- 2 授業料、施設費は前後期分納とする。
- 3 入学検定料は30,000円（初回入学検定時のみ納入）とする。
- 4 入学検定料、授業料等の減額又は免除については、別に定める。

別表第3 在籍料（第36条関係）

| 項目 | 金額 | 備考 |
|-----|---------|--------|
| 在籍料 | 30,000円 | 1ヵ月につき |

別表第4 科目等履修生納付金（第43条関係）

| 項目 | 金額 | 備考 |
|-----|---------|----------|
| 登録料 | 20,000円 | 更新の場合は不要 |
| 授業料 | 20,000円 | 1単位につき |